

# 適期収穫と的確な調整作業で 全量1等米!



8月25日から26日にかけての台風15号の影響により、管内でも一部地域において強風による脱粒や白穂等の被害が確認されております。今回の強風は長時間に及んだことから、強風被害がみられた圃場では急激な籾の水分蒸散により乾燥状態が進んでいることが推察されます。籾の黄化状況をよくご確認頂き適期刈取り、特に刈遅れには注意しましょう!!

## 1. 適期刈取り

～「適期収穫」することは高品質・良食味米生産には不可欠な条件です～

収穫時期は、籾の黄化状況や「積算気温」（裏面：収穫適期早見表）を参考に刈取り時期を判断しましょう。

◆主要品種（5月10日移植）の収穫適期めやす

品種	出穂日	湛水管理終了 (出穂後25日後)	完全落水 (出穂後30日後)	刈取適期 【早生】出穂後925℃ 【中晩生】出穂後1000℃から1150℃
こしいぶき	7月28日	8月22日	8月27日	9月3日(木)から9月10日(木)
コシヒカリ	8月6日	8月31日	9月5日	9月15日(水)から9月22日(火)

## 2. 飽差情報 8/28 現在

### ① 飽差値

調査日	調査地点 新発田市農業サポートセンター
8月23日	4.5g/m <sup>3</sup>
8月24日	7.5g/m <sup>3</sup>
8月25日	7.0g/m <sup>3</sup>
8月26日	6.4g/m <sup>3</sup>

### ② 籾水分(品種：こしいぶき)

地点	移植日	出穂期	籾水分(%)			強風被害 の多少
			8月25日	8月26日	8月27日	
新発田市下羽津	5月11日	7月29日	28.6	20.7	28.3	少
阿賀野市籠田	5月10日	7月28日	24.0	20.5	21.2	多

### 飽差とは

- 空気中にとどれくらい水を含むことができるかを表した値で数字が大きい程乾燥している状態です。
- 収穫開始時期に達し、籾水分が25%以下となった状態で、飽差値が9g/m<sup>3</sup>以上になると、日を追って胴割率が増加するので、その日から5日以内に刈り取ることが重要です。

直近4日間の飽差値が、9g/m<sup>3</sup>を超えていないことから、籾の黄化率85%(9/3～9/10頃)をめやすに刈取りしましょう。

◆台風15号の影響で強風が吹いた地域では①籾水分の急激な低下による胴割粒発生②枝梗が枯れ込み今後登熟が見込めない等の影響が懸念される圃場については、特に刈遅れに注意しましょう!

◆尚、台風の影響で2割以上の減収が見込まれる圃場がある場合は「NOSA!下越」まで被害申告して頂きますようお願い致します。

## 2. 丁寧な乾燥と調製を

～乾燥速度が「毎時乾減水分0.8%以上」になると胴割粒が発生しやすくなるため、乾燥には十分な注意が必要です～

- ①生籾は、籾の高水分や高温により変質しやすくなります。収穫後は出来るだけ早く乾燥機に張り込み、循環通風して変質を防止しましょう。
- ②仕上げ水分15.0%を目標に乾燥機の自動水分計が17%以下になったら、こまめにサンプリングし手持ちの水分計で測定しましょう。
- ③胴割れ、肌ずれ、籾の混入を防止するため、ゴムロール間隔は0.8～1.2mmを基準に脱ぶ率が80～85%になるよう調整しましょう。

\*乾燥機張り込み時の水分を確認のうえ、下記表を参考に送風温度を調整して下さい。

張り込み時籾水分	28%以下	24%以下	18%以下
乾燥温度	40℃以下	50℃以下	屋間は循環通風。水分ムラ解消後の夜間頃から乾燥温度を低めに設定して本格乾燥。

**無理は禁物! 作業時は安全確認の徹底を!**



